会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	第３回高松市下水道事業運営検討委員会
開催日時	令和６年１１月８日（金）　午後１時３０分～午後３時
開催場所	高松市防災合同庁舎５階　５０１会議室
議　題	（１）　高松市下水道事業基本計画の中間見直し（素案）について
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	－
出席委員	１１人
	今岡委員、末永委員（副会長）、寺尾委員（会長）、鍋嶋委員、高橋委員、松浦委員、安部委員、藤原委員、山本委員、久保委員、土居委員
傍聴者	２人（定員５人）
担当課及び連絡先	都市整備局下水道部下水道経営課 ０８７－８３９－２７６５

会議経過及び会議結果

開会

会長挨拶

議題　（１）　高松市下水道事業基本計画の中間見直し（素案）について

事務局から説明【資料１】、【資料１－１】及び【資料２】

（委　員）資料２の第５章、経費回収率について、令和７年度以降は80%を下回ってしまう見込みとあるが、これは汚水処理の費用が大きくなりすぎる結果、80%を下回るということなのか。

（事務局）物価高騰等により汚水処理費が増加する一方で、下水道使用料収入は年間有収水量の減少により減収する見込みであることから、経費回収率が悪化すると考えている。

（委　員）経費回収率の向上に向けたロードマップについて、目標値を達成できないと社会資本整備総合交付金が一部受けられなくなるというのは、何の根拠に基づいているのか。

（事務局）社会資本整備総合交付金交付要綱に規定されている。

（委　員）汚水処理費の中には、減価償却費は入っていないのか。

（事務局）減価償却費も入っている。

（委　員）それは使用料収入では賄えないと思う。

（事務局）年間で60億円程度の減価償却費がかかるが、一方で、収入には、長期前受金戻入として、国や県の補助金を平準化し、計上しているので、その部分を差し引いた金額が入っている。

（委　員）市のホームページに掲載されている、下水道事業の過去の決算書を見たところ、費用のうち約70％が設備費で、相当な額である。下水道使用料収入だけでは賄えないので、補助金等を上手く活用し、かつ、設備投資も合理的に安価に収めてほしい。

（委　員）下水道施設（汚水系）耐震化率の指標について、R11目標値の見直しをしていないが、H30実績が28.6％、R5実績が23.8％と下がっていて、果たしてR11に達成できるのか。何かしら理由があるのであればそのままでも良いと思うが、達成見込みがないのであれば目標値を下げてもいいと思う。

（事務局）R5実績値が下がったことについては、庵治浄化センターの耐震診断を再度行ったところ、基準を満たしていないという結果となったためである。
R11目標値を50％と定めているが、現状、進捗が遅れている状況で、目標値が高いというところは認識している。その中で、今後どうするべきか検討していきたい。

（委　員）最近テレビで、上下水道の耐震化率について、香川県が０％で一番低いと報道されているが、説明してほしい。

（事務局）報道であったものは、広域救護病院等の重要施設に接続する水道管と下水道管が、セットで耐震化が全てできているものがいくつあるかというものである。本市としては、現在、災害が起きたときの緊急輸送路や鉄道横断箇所の下水道管きょを優先的に進めている。R5年度末までに下水道管きょの耐震化が39.9％完了しており、より耐震化に力を入れていくため、R11目標値を40％から42.5％に上方修正した目標を立てているが、今後は香川県広域水道企業団とも連携し、上下水道一体となって耐震化を進めることも検討していきたい。

（委　員）マンホール蓋（浮上防止機能付）更新数の指標について、近頃、線状降水帯や豪雨災害が多く、浮上防止機能をつけることは非常に大事なことだと思う。R5実績値が1,753基、R11目標値が3,300基で目標値の見直しはないが、達成見込みはどのような状況か。

（事務局）現在設置しているマンホール蓋は、浮上防止機能付が標準タイプである。計画的に取り替えていく部分と、道路工事の機会をとらえて取り替えていく部分があり、年間200基以上を取り替えている実績を基に、達成見込みがあるものと考えている。

（委　員）資料1の概要6ページの5-2経営健全化のための方針について、これまでの取組事例を資料2で回答いただき、よく分かった。この取組事例は、見直し案の本編にも記載されているのか。記載をしてアピールしてもよいのではないか。

（事務局）資料3の素案（全体版）の56、57ページに具体的な内容を記している。

（委　員）雨水対策整備率の指標について、整備前と後の浸水シミュレーション等を資料に加えると、対策による減災効果が市民にも見えやすくなるのではないか。

（事務局）御指摘いただいたように、整備効果の分かりやすい表現を検討したい。

（会　長）指標実績値について、R5の実績値とあわせてH30年の実績値も記載すれば、計画の進み具合が見えやすくなるのではないか。

（事務局）そのように修正する。

（委　員）今回この委員会の委員になって、下水道のいろいろな事業や仕組みを知ることができた。そういった、下水道に関することを目にする機会があれば、啓発につながると思うので、情報提供に力を入れてほしい。

（委　員）海がきれいになるのは良いことだが、瀬戸内海がきれいになりすぎて魚が減っている。その辺からコスト削減はできないか。

（事務局）水がきれいになりすぎて栄養が足りないという状況については、国や県、市としても対策を進めている状況で、下水処理場からのリン等の栄養分を、海苔の養殖が盛んな時期に調整しようと検討が始まっているが、非常に汚れた水が出てしまう可能性もあり、処理のバランスが非常に難しく苦労しているところである。

（委　員）栄養塩の管理について、下水道の担当部署だけでは到底解決できないものだと思う。県や市、そして各部署との連携を今まで以上に密にして情報共有をしながら、各海域に応じた最適な制御を検討していただけたらと思う。

（委　員）先日、能登の災害復旧支援で、上水道の管路の復旧作業を行ったが、水道管は直せるが、下水管は排水が流せない状況がある。そういうことから、今後震災における対策を何か考えているのか。

（事務局）被災した際、少しでも被害が生じないように、事前の耐震化を行っているところである。また、関係団体等と災害時における復旧支援協定を結んでおり、被災した際に下水道施設及び下水道管路の全ての復旧に協力いただける体制を整えている。

（委　員）耐震化というのは、管路の耐震化であって、マンホールの耐震化はどうなっているのか。先日の災害復旧支援時では、マンホールが持ち上がっていて、排水が流せる状態でなかった。

（事務局）マンホールの周りの液状化によって、マンホールが浮いてくることを防ぐために、周りの水をマンホールの中に抜くための弁を付ける工法や、マンホールの周りに重しを付けて舗装する工法等で、地盤の状況等を見ながら、マンホールの耐震化も進めているところである。

（会　長）非常に色々な意見をいただいた。新しく様々な観点も増え、議論がより豊かなものになったと感じているが、次の会議でも引き続き、議論していければと思う。

閉会

以上